

国立市立国立第三小学校(2年目)

【校長】 日野 正宏
 【児童数】 578名
 【学級数】 18学級
 特別支援学級3学級



【課題・改善】

- 一人1台端末の更なる活用
 - ・職員にむけて、一人1台端末の活用研修の実施
 - ・児童が一つのツールとして活用できるまでに日常化
- 健康教育に関してさらなる意識の向上
 - ・運動分野だけではなく、健康に生活することをさらに意識していくための全校での取組・掲示物の充実
- 栄養士などの講師の更なる招へい
 - ・栄養士や健康に関する講師を招へいし、健康とは何かを考えるきっかけづくり
- よりすすんで運動する児童の育成
 - ・1週間で420分以上運動する子は全体の65%
 - ・コーディネーショントレーニングを年間通して帯で実施することで体力向上を図る。

次の取組へ

【1年目における実態・課題】

体育における「一人1台端末」の活用により、自身のフォーム改善や友達との交流を図る児童が増えた。
 ⇒全教員が負担なく活用できるようにすることが課題である。
 体力テストの質問紙調査項目には肯定的な回答が多く意識は高いが、運動・実技の結果としての数値は低い。
 ⇒端末の活用、体育授業の充実により、運動の楽しさを実感させることが課題である。

目標

- ・運動習慣等調査において、1週間で420分以上運動する児童(80%以上)
- ・体育や運動にすすんで取り組もうと考える児童(90%以上)
- ・健康的に生活していこうと主体的に考える児童(90%以上)

【成果】

- 主体的に学習に取り組む児童の増加
 - ・体育の学習は楽しいと思うか「思う」「やや思う」と回答した児童は95%
- 一人1台端末の活用による自身の運動技能向上
 - ・体育の学習で「上手に体を動かして運動ができるようになっていくことを実感」した児童が約90%
- パラリンピアン招へい
 - ・新たな運動に触れる機会が増え、「スポーツをもっとしたい」と考える児童が約90%
- 自身の生活を見直し健康に過ごそうとする児童の意識の変化
 - ・「毎日決まった時間に寝ている」「ほぼ決まった時間に寝ている」児童が約80%
 - ・「睡眠時間は十分にとれている」と回答した児童は95%以上

【取組】

- 児童が「もっとやりたい」と思える提案授業
 - ・児童が興味をもって主体的に取り組めるような活動・内容を公開授業として提案し、教員も負担なく取り組めるようにしていく。
- 委員会児童の主体的な取組の活性化
 - ・運動委員会の児童から、全校児童が運動に取り組む提案・実施機会を増やせるような取組、健康委員会による健康に関するポスターの掲示など、児童主体の活動の機会を増やす。
- 家庭と連携し、運動に触れる取組
 - ・体育部の教員を中心に「お家でできる運動」や生活習慣の改善の啓発を月に1回程度配信し、端末を活用しながら運動に触れる機会をつくり、健康の意識を高める。
- パラリンピアン招へい
 - ・講師の方を招へいし、実技体験や講演を行う。

【取組(詳細)】

◎一人1台端末の活用

学習の中で一人1台端末を活用し、自分の動きを撮影することで、自分の運動の様子を客観的に見ることができた。また、タイムシフトカメラを取り入れることで、数秒後に動きを確認し、改善を図った。保健の学習でAIテキストマイニングやジャムボードを活用し、友達の意見を集約することもでき、ツールの一つとして使えるようになった。この取組によって、自己のフォームの課題に気付き、それを踏まえて練習することで、できなかった技ができるようになったり、友達の考えとの共通点や相違点を知ることで自己の考えを深めたりするなどの成果があり、児童の主体性が高まった。



◎児童が「もっとやりたい」と思える提案授業・取組内容

1年生を対象として、「運動プロジェクト」を実施した。1年生児童の実態として、集団での外遊びの経験が少ないことが課題であったため、担任や他の学年の教員が休み時間に「学校の外遊びリーグ」の役割を担い、1年生と一緒に遊ぶプロジェクトを実施した。ボール運びや鬼ごっこ、リレー、的当てなどを行ったことで、児童は集団で取り組む楽しさを実感できた。1年生のうちから「運動は楽しいものだ」という素地を養うことができ、生涯スポーツに携わるきっかけづくりをすることができた。また、3年生では「フロアボール」という新たな運動を児童に提示して校内・市内へ還元できた。今後も校内で実技研修などを行い、年間指導計画に位置付けていく。



◎講師の先生方の招へい

「日本コーディネーション協会」の講師の先生から普段の生活や体育の学習ではあまり行わない動きを教えていただいた。コーディネーショントレーニングの動きであるラディアンや寝返り立ちなど普段経験のない新たな動きを経験したことで、動きの学習能力を高め、身のこなしの向上を目指し、自ら取り組もうとする姿勢が育った。オリンピックの方も招へいし、努力する大切さを学ぶこともできた。

